釜族

第2号

★

〈発行〉1973年4月某日　50えん

〈編集・発行〉『釜族』編集委員会（㊟）

〈連絡先〉大阪市西成区東田町44　野鳥の会気付

（電話）06-631-2383（毎日、正午～午後8じ）

《釜族》第2号　も・く・じ

P.1 『釜族』を発展させよう――ケバラ
P.3 徳さんの死――元木一男
P.4 あなたに
P.5 西成暮情――石田大南
〃 桜の葉――長谷川康
P.6 死――石川ヒデオ
P.7 さあ一パイいこう――〃
P.8 再起のとき――高杉
P.9 アンコやキャンダル者――淡路生
P.10 階級独裁に反対する――森本弘
〃 釜共闘は冬眠しているのか――○
P.11 暴力手配師追放――斗う労働者
P.12 釜族創刊号の「我々は自由人だ」に反論する――反逆児
P.13 人間は幸せになれないのか――K.S
P.14 日雇労働者の夢――岡本清
P.15 明日に向って生きようじゃないか――一労働者
P.16 或る夜の独り言――夙夜
P.19 思う事――浅野良二
P.21 釜ケ崎共闘会議支持――ジョウジ
P.23 聖イクの言葉――山ガラスのジョン
P.24 労働者の団結が第一だ――パンダ
P.25 飯場脱走記（下）――一労働者
P.30 釜ケ崎鬼兵隊――和田平之助
P.34 信濃忍拳（空手）をおぼえよう――信濃忍拳釜ケ崎支部

○○○○○○○○○○○○。

『釜族』を発展させよう。

春ですねェー。今頃田舎ではでは花がさいてひばりがないてまっせェー。

釜の春は陽気とともにあったかくなって、あせばみ出すと春なんやなあ。

天王寺公園の草や木は春芽が出そろって一せいにさくのをまっている。釜の春はいらだちと共にうづうづした気持でつゆに入る。

《匂いよし、釜のイチョウのその下で
　匂うがごとく、今盛りなり。》

かって三角公園、四条ケ辻公園で緑の木々を見たこともない。釜で春宵なんてうすよごれたドヤの壁に消えてしまう。

ここには春というものがない。そして秋も。夏と冬は、おまっりとまっさおな死が季節をつげる。

春なんてなくてもエエやないか。わしらで心の春を造っていこう。

釜族は創刊号を今年二月に出して、二号を四月に出そうとハリきってるけど、釜族創刊の目的がまだはっきり知らされてないので、言っておくと

。釜で働き、釜に関心のある者は誰れでも書ける。
。どんな事を書いてもいい。
。詩とか俳句とか小説とか言う形式は関係なく、表現されたものをのせてゆく。

物事はここから始まって来た。表現力を身につける事すなわち酒を飲む事、ドナリ散す事、一人ブツブツいうこと　あ、おまっりをやることで表現されたものを自分で書きあらわし、確実に自分のものにしてゆく。

そして、言葉がたくみで色々知っている人に牛耳られている文化を、わしらのもとに取りもどしてゆく。

暴力手配師と闘って、今では手配師に殴られたというのもあまり聞かんようになり、それだけ仕事もやりやすうなって来た。が、その斗いを見るか、あるいは聞くことしかできなかった労働者はいまだ弱く、そ

の渦中から一人とりのこされる。
斗っていった者の中にも、自分を素直に表現できず、弾劾に自分をひっぱっていった者もいる。
人間というものは、行動をする時、自分なりになっとくして行動しようと思う、が、自分の頭の中で起っている問題とは全然ちがう事が、体を傷つけはじめたら、そいつに対してかみつかねばならない。これは誰もがそういうふうにしなければならないだろう。
簡単に言えば、立小便して気持いいなあと思っとると、急にポリ公が出て来て、ケえられると、犬になみつきたくなるのと同じ。
そこでおれてならないのは、かみついた後が問題だ。かみついたことの正しいのはわかってても、何故かみついたのか自分なりに納得しなくてはならない。それが斗うことと自分を結びつける。
この自覚を共有し、広く知らせる為にも「金振」は発展しなくてはならない。
ここに文化は発生する。

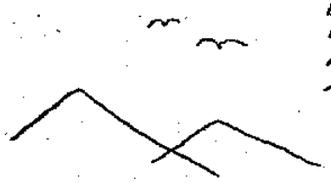
(2)

金の主人公である四十キロ大十字のおやじさんは、こそ「金振」をつくってゆく原動力にならなければならない。
自分はへたや、恥しい、と思っている者こそ、詩を作り、思っている事を書いてゆき、納得できる行動をしてゆかなくてはならない。
そこに新しい文化が生れる。
何でもええからかいてや。

徳さんの死

元木一男

徳さんが死んだらしい、、、、、、、
大貫食堂の横の路地で
みぞに頭をつっこみ
寝小便をして、、、、、、
小便が、カチコチに凍ってたらしい、、、、
徳さんが死んだ！
去年の暮は 田舎に帰るといって
一緒に三角公園の公衆便所に
古新聞をさがしにいったのに
暮いころ過った時、飯場の帰りだったのか
ようけ三を拝っていて
元やん一杯のもうて、いって元気やったのに
ず、と前、、、、、
二人で看カンした時、寒くてたまらず
徳さんがタキギをさがしにいってきて
もって来たら
どっかの家の板ベイをやぶって
拝って来たといって、ケッ、ケッ、ケッ
と笑っていて、元気やったのに
元気やった頃
よう二人で酒をのんだ、、、、、、
すっぱらうと、いなかに置いている二人の
子供の事ばかり話して、、、、、
二人で大笑いした事もあったな
どうやら、徳さんが下の娘をくれんかったから
俺も一生、よめさん貰えんかれからんぜ、、、、
まあ俺もボンベルから
徳さんも大国ぴかンべりや。



(3)

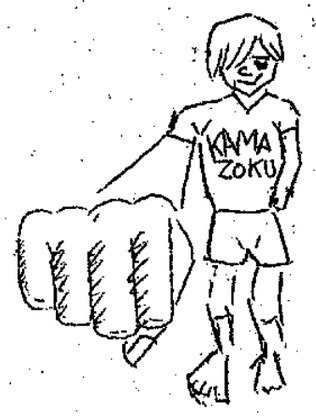
あなたに、我愛你

言いたいことを言おう
書きたいことを書こう
やりたいことをやろう

それで、それを
だめだと言われたら
ひくつになるのもいいだろう
けんかをするのもいいだろう
もうしません」と泣きべんもいいながら
ーそう、また同じあやまち??
まあいいでしょう
どうせ地球はたいのですから
毎日似たような、同じことのくりかえし
なのです。

笑って、泣いて、あこって、どなって
流きました、ガマンしました
やりたいこともやらず
人生は一度しかない
一度きりだ。一度しかないんだ。

こうかいすまい　こうかいすまい
とにかく一生ケン命生きてきました。
でもそれで良かったんですね。
あなたは正しかった。
僕は、やはり、あなたを愛します。



西成暮情

その上豊家の園なりし
大阪城の姿見て
お堀の隅にたたずめど
さすう心の求めなし

累卵の期に身はあれど
生計は細し　日労者
人の情にもたれつつ
郷愁しばし来し方を

日暮れて辿る萩の茶屋
徹の音もかすかなり
龍頭玉首の舟をこぎ
錦をかざる日はいずこ

石田大南（五十才）

桜の葉

青にして青き
実のる時　来たり
思いど時の月

長谷川　康
（キング）

死

クリスマスイブ
粉雪が舞ってた
ガード下で
やせた男がひとり
たおれてた
ヘッドライトが
つぎつぎに
照らしては消えた
抱きおこしてみた
酒のにおいはなかった
死んでいた
かすかに
笑っているように見えた

それからおれは
そばの酒やで　のんだ
立ったまま　のんだ
チビチビ　のんだ
一合だけ　のんだ
それから
友だちのところで
一時間程しゃべって
しょんべんして
寝た

（石川ヒデオ）

さあ一パイいこう

さあ一パイいこう　のぞきこむな
酔ったふりをするな
手をにぎるな
泣くまねをするな
ペラペラしゃべるな

さあ一パイいこう
首をつきだして　じっとおれのつらを見ろ
どこを見てるんだ
おれにつばをはきかけろ
おれを憎め
おれをなぐれ
さあ一パイいこう

（石川ヒデオ）

再起のとき

船乗りのぼくが　このちっぽけな国から海を眺めるために　旅に出た

あの非情の街に背中を向けて
復讐と憎悪の残り火だけが　さすらいの道づれ

血汐のような南海の夕焼けに涙した　あの純粋な日は
もう帰らない

暴風(ジン)の狂気もなければ　ベタ凪(なぎ)の虚無もない平穏な日々

波にもまれ　めまいと吐き気にぐったりし
飛びちった怨がラスの破片の上を　血だるまになって戦がつた　あの傷めなき痛を　あえて買って出た理由さえ
今はもう忘れかけている

俺を「ウタちゃん」と呼ぶヤツがいる
俺を「カイヨウジョナリ」というヤツがいる
誰も本当の俺を知っちゃいない
誰も昔の俺を知っちゃいない
だけど俺はオカにあがった「流れ者」

海は

海を描く芸術家の思索は努力を　嘲笑う
古代フェニキア人のふるさと
近代植民地主義者の航路
海は多くの侵略者を呑みこんで　ときどき死んだふりをする
海は少数の絶望した人たちを喰らって　ときどき激昂する
歴史の断片が消滅し　芸術家の筆によって海の喧騒が描かれる
その間に　帝国主義国家の沿岸から　海の死滅が私が(8)つてゆく
貧乏人の運命
哀れな自由主義　卑小な個人主義　滑稽なロマン
海はネプチューンのものでもなければ　ポセイドンのものでもない
ましてや侵略者のものなんかではありはしない
暗い港に点滅する赤い標灯が　ゆらりと揺れた
ぼくは怨念の残り火を再び燃えあがらせる決心をした
夜の釧路港を後にした

（高校）

アンコギャンブル考

ウィンチがにぶい音を立てて上っていく、それにたえ寒風がはだをつきさす。午前四時、人々はまだ暖かいねまで寝る時間である。しかし君々は昨日の朝からここにいる。オールナイトそれは正常な人間のする事ではない。しかし、安いがまとまった金が入る、そして今日は競輪がある。これで千金の夢をみる。

釜ヶ崎でのアンコ生活者はほとんどと言ってよい程ギャンブルの為働らいていると言ってよいだろう、又その為にこの地に流れてきたのが大部分といっても過言ではない。なぜこれで生活出来るのか。考えはっきりしている。競馬、競輪、競艇では百分かてない。風呂で、職場でのつがきをたれているのをきくが、そのあとたは必ず負けた話である。そして、これはこうしたらとかいう結果論ばかりである。

ギャンブルで借を建てた人はきかない。家を、家庭を、親兄弟をなくした人達の話ばかりである。勝てる道理がない。百円の金が七十五円しか通用しない、前の晩から予想をたててもかんじんのレースをする人間がどの考えているやつ、夜はねむれずコンディションが悪いかもわからない人達の競技するのに命から沢山の金をはって勝てる訳はない。もおそろそろギャンブルにみきりをつけようではないか。毎日人夫出しの単で安い賃金では生活をさせねばならぬのはギャンブルの為といってもいいすぎではない。

人を馬鹿にしたようなピンハネ賃金がまかり通るのは、こうした足元をみられているからである。ギャンブルをほどほどにして常にゆとりのある状態であるならば必らず低賃金をボイコットし、自分の労働力を高く売れるはずである。そして豊かな釜ヶ崎生活が出来る事は夢ではない。人間の労働した上前をはねて生活し、それを営業とし、まだその上財産を増している組織的手配師集団に立向うにはギャンブルと縁を切るしか現実的方法はないのではないか？　ひやくしょう論だろうか、ろう論!!

パレスタ　淡路生

階級独裁に反対する

過去の歴史を見ればはっきりするように、階級制度が生れた時から「差別」と「搾取」がはじまった。人間の最高の幸福は、のびのびと誰にも命令されずにお互いに助け合って生きていけるのが、最終的に人間の解放になる。ソ連及び中国など社会主義諸国は再び資階級独裁、平等と搾取なき社会と宣伝しているが個人の自由を奪っている。中国は資本主義道上なのでまだ分からないが、一人の人間として生きるには世界中で一番住みにくい国だ。

一人より三人、十人と集団が大きくなるにつれ階級が生れ搾取が始まる。それは資本主義社会も社会主義社会も変りなく、そこでは搾取がおこなわれる。

資本主義は大企業が、社会主義は国家が搾取をする。それはどんな大義名分をもってきても搾取である。

人間解放は「階級制度解体」自然発生的反乱でしか自由、平等の社会はまれない。

我々は意識的に革命に反対する。それは権力者の交替におわるからだ。

釜共闘は冬眠しているのか

防衛コーナーでは若者労働者と釜共闘を分離して孤立させようと、人の養金をつかって親方日の丸で宣伝しているが、若者労働者は誰が敵で誰が味方であるかは、肌を通してはわかる。若い者は労働者達が体をはって人間の度をかばっただけのヤクザ土建や例えばなくて人の労働のピンハネをされた服をきて通勤でいる。(10)

最後の男達となんのバックもたず、又利益を求めず斗ってくれたこれらの人達。私は私欲もなく常に下層の利益の為に頑張っているのをみるにつけ、今日多くの労働者もある程度現場で権利を主張できるようになったのも、これら純粋な若き労働者のお陰というても過言ではない。みんな言わないが大部分は心の中で思っている事だろう。しかしまだまだ頑張ってもらわなければならない。若き労働者の地位向上の為、冬眠からさめてほしい。

ペレス　O

暴力手配師追放

現在私は、暴力手配師追放をスローガンに斗う「釜共闘」を支援する一人の労働者です。

今迄悪徳手配師に泣かされてきた「釜ケ崎労働者」で有るが、これまでの斗いの結果、今や手配師（ケタオヤジ）と労働者の位置関係は完全に逆転しつつあります。

釜共の斗いも、マラソンでいえばまだまだスタートしたばかりで、これからも長い斗いが続く事だろうと思うが、だから「釜ケ崎解放万歳」と言高らかに言える日まで、国家権力の犬と屈することなく、今後共釜のために斗っていきたいと思っております。

話は変わるが、この釜ケ崎に住みながら、まだ一度も他の一般労働者は、釜共闘の斗い、又その意文を理解しようとする人達が大山居ると思うのです。その原因は国粋義団体（西成署）が毎月発行している防犯コーナーのチラシだ！　彼自身も最近その事について頭に来ているのだが、……

プラス防犯コーナーを政治的に最大限に利用し、これ以上は書けぬと思う位好き放題「釜共闘」の悪口など、又「釜共闘」にあおられて走る奴は馬鹿だとかいった内容等だらけ、デマを書いて、斗う労働者のバックを理的にすべわせ様とたくらんでいる。そのせいか一般労働者の中には「釜共闘」の道理有る斗いを、変に誤解している者も沢山居るはずだと私は思う。

その誤解を解く意味において「釜共闘」の若い方々主張し、この間三角公園で行なわれた「横山組追放」大集会は我々労働者にとって、大変意義の有る集会で有ったと思う。だから今後もさらに労働者の団結を強くするため「釜共闘」はもっとくーーあの様な労働者の集会の場を作っていって欲しいと思っている。（作るべきだと思う）

暴力手配師追放！　国粋暴力団を粉砕するために

全釜ケ崎労働者は団結して斗おう。己自身の為に！

釜ケ崎解放！

斗う労働者（ひげーた）

釜族創刊号の「我々は自由人だ」に反論する

金にやって来たのは精神的自由があるからだと言っていますが精神的自由とは何か？　カケごとをする、女を買う、大酒をのむ、規律がない、何が何かないと分かなく、好き勝手にできるからか。それだけのために人間として権利をなくし、青カンで死に手配師、ポリ公に殺られる社会体制であっていいわけないでしょう。

たしかに社会主義社会にはそうした自由はない。だが社会主義国では人間関係は対等である。上役下っぱという関係はない。ニッポンよ、気がねする人間関係はそんでいしないのだ。

資本主義社会では、金こそ労働者は機械のハグルマの一つでしかない資本の部品であるが、中国では車の運転もで、修理もできる、溶接、せんばんなどの機械も扱える、農業工業軍事も、また芸術もやる、政治にもどんどん参加し、生々としている一人の人間があちゆる面に活動している。そうしたことが可能なのです。

精神的自由とかいつブルジョア思想をもって、時に改造しないと永久にどれいの状態から抜けられません。

革命が起り労働者が権力を握っても、エリート（学校出）テクノクラート（高級技術者）などが重要な地位をしめている状態をなくし、労働者自身も立ちあがり精神的構造（思想）を変えないかぎり、また元のもくあみになり、どれいから解放されないし、真の人間の解放もない。支配者階級は金の労働者に限らず労働者をいつまでもこのような状態にさせているのです。(12)

ますますひどくなるマンガ、TVなどエロ、グロ、タイ廃文化をみれば理解できるでしょう。そう遠くない将来に金ッ晴も日本も変るだろう、世界の情勢はすばらしい、インドシナでのベトナム人民の勝利、ラオス、カンボジア人民の解放闘争の勝利も時間の問題、人民中国の国連での勝利、日中国交回復、国際通貨危機など私達の前途は明るい。

老人共同体を作ってけと言っておられますが、そのようなユートピアは実現できません。なぜなら、農業破壊、漁業の崩壊、新全総の産業侵略、又最も集中的にあらわれているのが三重県農民の土地取り上げ、その他インフレ政策など、政治的に、農民、中小商店主をふくめた全人民に、どん底の大河へ落し入れているもとで、こうした抑圧している者との対立なくして問題は解決しない。

反逆児

人間は幸せになれないのか

われわれはよくこんな事を考える。人間ちゅう者はしあわせになれないのか、しあわせになろうとすればべをけたおしてでも優先に勝たなければならないものだろうか、今夜のあしたえあてのない人生、こんな実状でもはん宗する経済大国日本の社会の一員として認められるのだろうか、残された最後の命の灯さえままならぬままにわら消されようとしている人達！　明日はわが身の我々！　見殺しにされる人生。

こんな中にいる者は果して何を考え、何を求めて生きればよいのか、利己的に生きて満足なのか　人を嫌われていたいのか、明日の命は、人生は、五年先十年先などどうなるのか、何がみんないがみ合っているのか、人を傷付けて結果はどうなるかわかっているはずだ。

今、世の中は変わり、候達だけが取り残されようとしている。我々も考え方を改め、話し合い、協力してゆかねばならないはずだ。仕事を見ろ、機械が人間の何十、何百倍の仕事をしているのだ。単に個人の能力や資質では達成すら出来ない世の中になりつつあるのだ。今、根本的に見つめなけれならない時期にきている。(13)

のではないだろうか？　このままの状態で我々は放ったらかしにしていると、ネニ、ネニのあとからついてくる人達にまわれるぞ、もう一度考えなおそう。悪い習慣を残すな、悪い習慣を残すと、悪い人間が集まる、良い環境を、良い習慣を残すと良い人間があつまる。皆んなで悪い習慣を悪い環境を釜ヶ崎から追い出そう、そして自分自身を良い人間にしてゆこう。

K・S

日雇労働者の夢

我々日雇労働者に何が必要か。金か、酒か、女か、法律か。確かに現在の社会機構は汗れなければ飲みすぎから倒れる者はないのだ。故に手の様に我々がなっておれば永久に続くのだ。これで良いのか。中国では百万人の人民が国家の政治を握り、それを持続する為に日々階級闘争の精神でいろと聞いた。搾取なき新労働者、利なきつき合い、これを夢みる私は、社会主義社会に到着した中国にあこがれを持っている。

今の釜ヶ崎を考えよう。昨年の釜ヶ崎はどうであったか、現在はどうか、更に今年の年末はと考えると、斗いこそ我々が解放される道である事がこの釜ヶ崎でも実証している。鎖から切れる為に、鎖を打つ者に我々が鎖を打つのだ。殺られたら殺り返せ。この叫びを釜ヶ崎の全日雇労働者が結集し、波状的に地域的に広げていく事が我々の任務であると考える。行なおう。

闘う奴に多大の連帯を供ささげよう。　阪本　清

（14）

労働者の天下
中国を行く

（読みたい人は野島の会へ）

山谷・釜ヶ崎労働者友好訪中団報告集

明日に向って生きようじゃないか

俺は現金は余り行かない、だいたい大阪十日契約に行くと一年が過ぎる。

飯場に行くと友達が出来る。皆んな十日分りて帰っても、二日か三日でパーだもん、なにとるか判らないと言う。俺自身もそうだ。

皆んな判っている。けれども西成へ帰って来ると淋しい、なんだか、やるせない気持になって、やたら酒を飲んでごまかしてしまう。

西成飯場を出れば、酒の肴に酒を飲んで寝ている人が居る。誰でもこんなことはしたくないんだ。

俺は金持や金持になろう、などは思わない、でも少なくとも生活は生まれて来たんだ。生まれて来たからには何かが、俺には判らないが、そう言っている、聞こえてくるんだ。

明日に向って生きようじゃないかと、

一人で淋しかったら二人で三人で

私は早春の柳や芽生える頃のように
なんだか自分の生命が、そこに吸収されている様だ
春になると、若葉が燃える故郷に帰りたい
でも　僕にはどうしようもない

（15）

或る夜の独り言

寝つかれない……寝つかれない——自分とは無限の檻だ——無限の欲求だ——寝つかれない……寝つかれない

釜ヶ崎とは無限の檻だ……人間の無限の心だ——無数の錯合した方針線が生命の流れにせまってくる……自分を、正体不明の自分が何処までも何処までもひっぱっていく……そしてソッしか かたわの部分が出来上がってしまう……到る所に 弱さ 卑屈さ 卑怯さが その時はどうしようもないものとして残いつづいている……

よりよく生きようとしている。時間の中で 何かができあがっていくんだ……無数のエゴが 一つ一つ 宇宙の中心に 人権とともに巣くってソて、奴隷と王様 愛と憎しみ コンプレックスと愛感覚 サドとエゴ 心の二面性の中間を ゆくえ知れずさ迷ってソる……或る者は 食う種を求め、或る者は 金を求め、或る者は 愛を求め、或る者は 生きる自信を求め…… それぞれの願望が欲望や心を追い求めながら……死んだ都会の雑踏に吹き寄せられたり 廃村風景に心ひかれたり 釜ヶ崎で行路病死したり、アル中になったり、肥満者になったり、ブーテーンになったり……資本主義のグロテスクな繁栄の中から、よろやく急を付ける程度の場にしがみつきながら……さ迷ってソる。エゴから逃れようとしてソつしれエゴに帰り……帰ってくレまう……ぞも それでもいソじゃないか それをこわして何が残る……何もわからないじゃないか……虚しさが……横立ちが……かけ上がってきては 俺を笑う……到る所に……エゴとソう 不気味な 弱々しい 暗黒の花びらが咲き乱れてソる……欲望が渦巻く高度資理社会、複雑にかみあった利害関係のジャングル 実力主義 強者生存 自由競走の 成り上がり者と 転落者……その中で 絶えることなく展開される エゴとエゴの悲劇の喜劇……不条理な存在……何処かが狂ってソる 狂ってソる……でも 生活はとだえることなく続いてソく……到るところで 義ソを忘してもいつしか 自己保身に……

一人閉じ込められて立ってソる自分に気付く……

思い出すなあ……故郷を……伊那谷の山奥を……かくれんぼうを……お祭りを……ところがどうだ……この妙に虚ろな部屋!! 寒い!! 心をおちつかせ……歩くたんびに何かをすてて 何かをひろって……死とエゴが同時に訪れて……味く……覗き込んでソる 深い夜が……窓がラスから覗き込んでいる……そう言ってもあ 俺なりに色々なものにつまづいてきたなあ……肉体に……環境に……思考に……言葉に……性格に……位置に……愛に……SEXに……食う事に……行動に……人間に……心に……弱いんだなあ……いつも何かに小ばり回されてしまって……自己正当化 自己防衛の論理を見つけ出しては……何処かに強がりや ハッタリや ウソや 居直りや ごまかしがみついて、ないと脆弱な俺は、すぐ 潰されそうで……そのくせいつも考える事だけは とてつもなく大きくて……フツと小さな世界にもぐり込んだり……イヤらしい ぞも 何かいいとこもってソる存在…… 全て 否定も肯定もできないんだ……一つの領域でしか 一つの結論見い出せないんだ……この社会の中に 一体 どれだけの人間と歴史がおりなす二の世の狂ったドラマに巻こまれないんだろうか……そういやあ 人間がつくるものにろくなものはないって誰かソっていたなあ……ヤケクソ染みて……

ぞも このままじゃあいやだ いつか 破滅の時がくる!! 何かしらの……この欲求がある限り……憎しみが愛が……現実のすべて土壌をもつる限り 今あるものより解放された社会 自分が みんなが 自由なやさしい

心を取りかえる世界を！！作りたソ！！そう思う！！積極的に現実の混乱の中で生きようとする意志に　まず
ある者は何もないんだから！！けれど、どんなつまらんものでも　ある人にとっては貴重なものもあるし　ある
人にとっては　許せることも　ある人には　許せないし、ある人に通用することも　ある人には通用しないし
そこから先へいける人間もあれば、いけない人間もいる、山にも、いろいろな登り道が　歩くペースがある！！
やりたくても、できない人間もいる　人間　十人十色ってよくいったものだ！！社会なんて化物見つかけること
なんてよせよ　と、確か一人の年老いたアンコだったなあ！！公も　惜しみは　消えないだろう！！乗りこえ
たい　今の現実を！！いろんな心が、いろんな立場で　一つ一つ意味をもって　構成している　この現実を
！！でも心の中に　メリこんだら迷ってしまう！！一つ一つとは全てをかくんでいるのだから！！全てとは、みんな
いんだから！！　結局いつも　自分にかえる！！ケンカだ！！やりきれない！！でもその自分がまだまだという
しようもない！！悪魔！！悪魔！！悪魔の沈黙！！酔いたい　酔いたい
ナア！！酔っぱらって破壊することにも通じるんだろナア！！　そこ言ヤア　暴動の時　騒ぐ中で陶酔している顔を
見たことがあるナア！！寝つかれない！！寝つかれない！！自分とは無関係オリだ！！そんな中に閉じ込められ
てしまって！！分裂してしまって！！時々情緒爆発　ーーて！！でも　けっこう　つごうよく　ごまかして生きて
いるところがあって　バランスがとれて！！そして　人を傷つけてしまって！！でも　そんな時は自分も傷つい
ていて、裏と表　ひっくりかえしたら同じで　でも遠っていて！！何処か偽善的で　本当の武器はなんだ　急苦
しい　急苦しい！！寝つかれない！！夜風が遠い地平線で吹いている！！　（風夜）

思う事

浅野良二

なんだなんだと言っている時、暴動の時、朝鮮殺せ！と言ったあの朝鮮！というようなことを聞くとイヤになる。確かに手配師には朝鮮人が大半やけども！！！　手配師はアカンけど、朝鮮人はアカンことなり、一部の朝鮮人が悪いことをしたら全部が悪いように言ったりするのはアカン、それ以上に悪いことも何もせんでもマイクらは悪いやつやゆうのはよけ悪い。

西成の人間は世の中から白い目で見られる。これはイヤなこっちゃ、だからオレらも他人を白い目で見たりするのはやめよう。そしてそうゆうことを利用する本当に悪いやつをヤッケよう。

せめて釜で堂々とオレは朝鮮人なんやと大きな顔してみんなに言えるようにせなあかん思う。

労働者、団結だ！　と言ってても片一方で朝鮮人の働く仲間が自分の素性を過去をいえないようなふんいきやったらあかん。

日本人、日本の国は善き多き朝鮮を初めとして中国とかアジアの人に悪いことばっかりしてる。

釜の日本人労働者はそのことを考えて色々やらなあかんと思う。

今一番気になること

センターに私服がウロウロすること・仕事行くきでセンターに出てるのに私服やセイ服のポリ公がウロチョロしてるのを見ると仕事へ行く気がなくなる。ほんまにけったくそ悪い。ウロウロするな、仕事も行かんくせに！

カわいそうなこと

Qちゃんはデッチアゲでパクられてばかりいる。

今度もまた、いつものデッチアゲでつかまった。

彼は一生けんめいなンバッてる男だ。今ごろ鞄置所の中にいるのかと思うと、あのはッチりした体をもてあましてるのかなあと思うとかわいそうだ。早く出してやりたい！

ほしいもの
やっぱりデッチマケでつかまえられてる人の釈放
そして私はお金、あったほうがよいから。
でもあってもすぐ無くなるし、なくてもいいようなものだし。と考えるとわからなくなる時がある

青空に飛んでく鳥の色、
灰色の空を流れる雲の色
、池にうかぶコイの色、
町も木も水もチリ紙も
何もかもぼっかっ、
なんでもかんでも赤だ
った。

行ったらアカシと言は
れたのに、ついつい
ラコラ行きました。
ラまく行くはずやった
けど、失敗して黒いオ
リに入れられた。
でも私の心は赤くなっ
ていた。

釜ヶ崎共闘会議支持

釜ヶ崎くすべての労働者！仲間達よ！

今こそ一人一人が自分自身のおかれた立場について、もっとまじめに、もっと真剣に考えなければならない必要があるのではないだろうか。考えてみればこの二三年間までは、手配師と労働者の対関係は、圧倒的に手配師共側有利であった。その頃の悪徳手配師共は、権力からいとんこしてきた労働者を道のまん中で、それも真昼間から平然と、なぐるけるのめったい打ちにしていたのである。ちくしょう！俺がスーパーマンやったら、あのやられている仲間を助けてやれるのにな あ、何も出来ない自分が、どんなに残念だったろうか、それは我々仲間の一人一人が皆んな同じ気持だったろうから。それは勿論あるごとに多くの労働者が西成署に知らせに行ったけれども、一体ポリ公共は何をしてくれたというのだ！！ 我々労働者はそれら悪徳手配師共やケタオチヤー公がペクラした話は、一度も聞いたこともなく、見たこともなかった。ましてや我々の仲間がでいすいで保護されたこともなければ、なぐる、けるの暴力を使い、その上にまだ頭から水をぶっかけるなど、そればもっひどい仕打ちをしてきやがったのである。ポリ公からは常に見下され、見離され、資本家や、人夫出し、悪徳手配師、ケタオチヤー公からは、ばかにされ、けられ、ドレイ扱いされ、いつも、いつも泣かされてきた我々釜の労働者は、いつでも、どこでも常に犠牲者であり、哀れむべくピエロであった。しかしながら現在の釜はどうであろうか、昔の釜にくらべて非常に少しづつ住み易くなったような気がする。悪徳手配師やケタオチヤー公との力関係も我々労働者の方がはるかに有利になった。たし、就労の際の条件達も前よりは少なくなったように思われる。なぜ違うか、それは我々釜の労働者が長い年月を費いやして一人が十人、十人が百人、百人が千人……と、若者も老いたる者も団結の輪を、鉄よりも固い団結の輪を作り上げてきたからである。そしてここに

絶対に忘れてはならないものがあるということを知っておかねばならない。我々労働者が人間らしく最も人間らしく生きる為の正当な戦いのその裏には数多くの我々の仲間が、ボリ公や悪徳警察官、ケダオラマー公共の犠牲になってきたということを、……そりゃ誰もが自分がかわいいし、己れが大切である。しかし誰かがやらねば誰が戦わねばいっまでたってもやられっぱなしだし、泣かされっぱなしだし、一つも変らないということを、金のすべての労働者、仲間達一人一人が自覚しなければならない。

現代の世の中は全くむじゅんしたもので、我々労働者が働けば働く程資本家がボボボボもうかる仕組になっている。例えば、我々一日の労働時間8時間のうち一時間も働けば、もうすでに我々の日当分位はなせいでいて、残りの七時間は資本家のブタ野郎に奉仕している状態で全くバカらしい事実である。その為に資本家のブタ野郎共だけがブクブク肥えこいって、我々はいつになってもびんぼうくさいのである。

都会のはなしい生活の中にすべての資本家はいっさい、金を一人じめしているのだ。未だに資本家がべうまいた公害で苦しみ続けている水俣病の患者や、森永ヒ素ミルクを飲まされた子供達親が苦しみ泣かされ、又国家のむぼうな暴力による追ろのきによって住民が行く所もなくこまよい続け、やれオリンピックだの万博だの、新幹線だの、ビル工事だの……労働者が、我々の仲間が一人一人死んで行っているのである。

そしてそれらすべての国民、労働者が、資本家政(22)や国家の犠牲になっているのである。いまや全国に広がっている学生運動は、農民運動は、住民運動は、工場での戦いは、それら資本家のかってな振るまいに反抗して戦っているのであって、我々全の労働者も一人間として、人間らしく生きる為の正義の戦いを!!真の戦いを!!全に働くすべての労働者共に、又日本のすべての労働者共に!!しいては全世界のすべての労働者共、戦わずではないか!!

我々全ア婦の日(労働者)長い、十月にわたり、ポ

りんや、手配師共や、ケダオラマーコー共に泣かされ苦しみ続けられてきたが、もう弱者を泣くのはやめよう、もう泣かされるのはやめよう、貧がもっと圧迫すればもう何も恐れる事はないのだ!!今迄度度暴我々労働者を味方に着けようと思っても、もうおそい。今更ケダオラ業者や悪徳手配師共が我々労働者を味方に付け様と思っても、もうおそい!!

我々の長い歴史が証明しているのだ。死んで我々の仲間の為にも、きづついた我々の仲間の為にも、又、これからの我々の仲間の為にも、我々全ア婦労働者三万人以上がすべて団結して戦っていこうではないか!!

金子静解放　ジョウジ　金子静

金メーデー万才

花のまんだら
さまよいゆけば
めぐり　くるくる
おくつきの　ほうずき
なるよな　じゅつの　おと

聖教者に　おくる

ナマステ

聖イクの言葉(23)　山ガラスのジュン

労働者の団結が第一だ!!

今迄色々な雑誌や新聞に多くの人が、色々な自分なりの社会に対する批判、又社会を良くするための提案を述べているが、実際には、この世の中が少しも良くならないのはどういう訳だろうか？　俺の考えでは、日本の政治家、全部が全部とはいわないけれど、大きい事も言うのりには、何一つ実行していないから、だと思う。俺自身も余り偉そうな事も云えない身分だが、それも取りまく周囲の人間も、みんな口先ばかり達者で結局イザと成ったら長い物にまかれているのが現状じゃ無いだろうか、そして取り巻きの敵ばかりの為政者によって一番大きな被害をこうむっているのは民々社会の底辺、給料時と働く労働者だと言っても過言では無いだろう。

資本家などは金の労働者など、どこ吹く風と云った大さな態度でのさばり、日頃民々から搾取した金でもって、うまい物をたらふく食ってブクブと肥えっているが、此の様な全く労働者泣かせの状をうめた今日を作った責任は全部、政府と有る、全く日本は資本主義は、罪深いと云うべきだと思う。

話は変わり此々金でも暴力手配師及び、ケタオラ商成業者に向けて多くの労働者の多いが日々展開されて来ているが、まだ〜多くの労働者が泣いている。しかしこの様な状況においては、何ら変化進展性は望めそうにない。生きていて何ら人生に進歩の無い人間はそれ、こそ生きている価値が無い。死んだ方がましだ、やはり多くの勝利するには労働者の団結が一番大切だと俺は思う。

後で後悔する事の無き様、自分自身を見失わず良く見つめて、誰のためでも無し将来の己自身のために何事にも労働者は団結し斗って行く事が最も大切なことだと思う。

飯場脱走記

翌朝の起床は大時き少し過ぎていた。追廻し共も仕事はしないものの何分一昼夜半スイ眠を取っていないので見張り奴が居眠ったらしい。何時もの時刻より遅れたのを組長の女房が気付き起したものらしい。

昨夜一つの事件が起きていた。一人の仲間が脱走したのだ。三尺程の土間を離れて追廻し共が寝ている、奴等は外に出たい時は見張りに合図して何時でも自由に外に出られるのだ。奴等は内と外で監視しているのだ。さすがに昨夜は追廻し共もぐっすりだったのだ。

昨夜逃げた仲間はイビキの大きな男だったらしい。追廻し共がイビキが大きいといってなぐったらしい。すべての自由を奪われ、激しい強制労働をさせられた上、眠る事までも奪われた仲間はさぞ苦しかっただろう。一昼夜半の連続労働後も眠らずにすきをうかがい、窓の外の金網を破って逃走したのだ。何を道具に使ったのかわからないが、一心になった人間の意力と体力はたしたものだと改めて感じる。窓が破られ逃走したので今日は鉄ゴウシになるらしい。

今朝も俺達を運んで居る時に騒動が有った。曽根崎署の近くで車が止った時、仲間が一人逃げだす、そして追廻しが追ったが曽根崎署の中へ逃げ込んだのだ。あれだけ解け難いように結んで有ったはずのロープをどうして解いたのか深い謎である。

作業現場はどうやら本町に存るようで、地下に追い込まれた俺達の仲間の中から、ひそかな、ささやきが聞こえる。「矢割逃げた男は必ず理由を話すだろうし、俺達は付いた金も貰い、堂々と帰れるかも知れんぞ」

俺は半信半疑だった。けれど苦しかしたらという期待もあった。欺されるは労働者の常、期待ははかなく消え、何の音沙汰無し。追廻しや組長兄弟三人を少し動ようさせただけで終りそうだ。

今日も一日の作業を終え、飯場に帰りつく。風呂の在る日であった。一日おきにあるそうだ。風呂と言え

ば間こえは良いが、俺達の風呂は一人三分足らず、どこも洗えず唯湯につかるだけ、残業の退屈し共が外は寒いから俺達を早く上がらすのだ。

俺達が追込まれカギを掛けられた後、隣の部屋では十人程の退廻しに組長が訓示している。「部屋のアニコ達には絶対に必要以外の話を許すな。勝手な話をさしておくと口クな相談をしやがらんもんだ。皆は十分注意せよ。そして、今晩は勘定を渡すから、先ず右前達から取りに来い。アニコ達にも取りに来るように伝えよ」

此の話を聞いた俺達の仲間の中にもざわめきが起る。金を貰った退廻し共の半数は跳びに出たらしい。残っているのは五人程のようだ。奴等がアニコと呼ぶ、俺達の仲間が二十四、五才位の加藤と言う男が呼ばれ、組長の部屋に行く、ニコッと顔をほころばせながら。間も無く帰ってきた加藤の顔面はソウ白で血の気も無い。彼は此の飯場に来て二十八日であり、働いた人クは三十五人クだそうな、そして酒も煙草も吸わず、他に一銭も貰い道の無い監獄生活のモと恐れいって言葉もない。彼加藤の給料は二百円の赤字だと言い渡されたそうである。

次に行ったのは、木藤と言う年の四十才前後の男である。彼は二十五日たち、二十九人クかいているそうだ。彼も間もなく目に涙を浮かべてもどって来る。九百円という赤字だそうな。

組長の弟が部屋の外より言う「勘定の事を知りたい者は部屋に来い、今直ぐ来ない者は次の勘定と一緒にする」と言い置いて自分の部屋に行ってしまう。後に続いて行く者なし。行っても無駄であると思ったのであろう。

今にして気付く大きな竹藪の秘密。今迄にも何百人か知れない労働者がこれと同じ手で苦しめられたのだ。奴等は最初から金など一銭も払う気が無いから酒と煙草しかない議式など計算する気がなかったのだ。此の飯場の空気と厳重極まる監視、暴力的リンチからして予想されない事では無った。

木藤という仲間は泣きながらいっている。どんな目にあっても勘定だけはして来ればと思ったに俺たち国に妻と子供二人がいるんや。俺が送ってやる金を指折り数えて待っとんね。きぬ枝、ひどい所へ来てしまったよ。俺は勘定貰ってはやく前等の所へ帰りたかったよ。ワァーー(…)

声を殺しながら泣いている。初めの日の興奮は誰もが如何に活れても差タクしないからだ(センタクがゆるされていないのだ、破れたらそれなりに泥がっけばそれなりに 皆寝で寝ている。此處に来た者の九割は善たきり雀だ。二ケ月近く居る者もこ ありそうだなタオル一本すら手に入れる事が出来ずいままでは困っただろう。

隣の男が俺にささやく「前務所かてやうないことを罪も無い俺達にやるんだと思えば腹がたつなし。

俺もささやき返す「兄弟俺達も力を合せ機会を作り先ず此處を逃げ出し いっかは思い知らせてやろうぜ」

脱走日の朝を迎える。今日飯場の主力は本町の現場 連はたき火に当っている。監督が来て俺達より二〜三十

で降り、俺達十人位伊丹に行く連から降り空を見れば日本晴れの空だ 心なしか今朝の日光は俺達を祝福しているようだ。

仕事はベルコンを使っての堀方だ。一時間程たった時、作夜来た仲間が退廻しに便所に行かせてくれとたのむ、この仲間は地獄のような飯場にピッタリして逃げ出したくてたまらないのだ。どんな様子な俺にも手に取るように解る、退廻し共がどうして見逃そう この男の願望は空しいのだ。退廻しの一人が俺に命ずる便所へつれて行けと 俺は一番新入りの仲間についてゆく、彼の方を見れば退廻しは俺達をカンシしている。俺は此の仲間にそっと逃げたいのは兄弟だけでなく皆逃げたいのだ。今日はチャンスが有りそうだ 兄弟逃る時は一人くでは失敗するから皆力を合せてやろうぜ しかし、今は駄目だから黙って仕事してわこうぜ。此の仲間はコックリする。

やがて夜になり多後退廻しが火をたけとえい指仲間達はたき火に当っている。監督が来て俺達より二〜三十

れ離れた作業場に二人の追廻し共を連れて行き午後の作業の指示を与えている。このスキを見て俺達は口をきいた。

「おい皆んな俺達は何時迄もこんな所にいればそれこそ終りには殺されてしまうぜ 俺達にゃこんな馬鹿げた目に合う理由なんかちっともないんだ 奴等は二人だけじゃないか 皆んな力を合せりゃ恐れる事なんか何もないんだぜしと

俺の隣りで寝ている男が言う。

「俺は一人でも奴等二人を打ち殺して逃げようと考えていたんや 皆んな一緒にやろうレ 御同様の気持はすぐ合致、二人が鉄筋の梁頃な訓練を持てば、なまじ鉄筋を多いっせいに走り出す。後ろで追廻しが何かえっている、俺達の逃げ足に気付いたのだと端の内を走り抜け、二。。米俵行った所で後を見れば追いかけている。仲間の一人が云う

「おい皆止まれ、奴等は追いかけて来ている。今日こそ積もるうらみを晴らしていこう、俺は奴等を半殺しにせん事にゃ腹がいえん」

そこで俺達は立ち止まる。追廻しの二人も立ち止まり追って来ない。さっき止まって斗うといった男が、

「逆に引返して行ってなぐりつけよう」とまいもどり出したが、仲間の中の一人が

「逃げればよいからやめよう」と言って止める。

追廻しの二人は立ち止まってポカンとしている。俺達はゆっくり歩いて二三程道角を曲る。仲間の一人が突然走り出す、皆もつられて走る。仲間の何人かが、口々に「もう走る事なんかいらん」と言い出し、皆は化かされた後のように歩き出す。

逃げて自由を得る為と、積るウラミの為に斗うと決意した側でも、逃げられたと言う安心感が拝てる時になって、又急に恐怖感、不安感が出たようだ。

俺達は俺達しばって居た暴力の鉄鎖を断ち切って得た、身体の自由の価値を味いつつ、心を合せて斗った勝利を祝福し合いつつ、歩き続けた。何だか何じ自分の体でも、解く前、たように思えてならない。塚口駅から

(28)

ら無賃乗車で約二の故郷となった釜ヶ崎に帰る。

此の彼友達の大友君の宿に行き彼から千円借りる。彼は心よく借して来れた。前の宿に行き荷物を受け取り宿をとる。此の残額千円という金の価値と当然の自由生活を有難いと思った事は無い。

俺は中一日置いてセンターに行き、福西組の実態を告げ、後に残った仲間達の救出と俺の賃金の取立てを依頼しようと思った。

センターでは誰も口クに聞かず、自分達が勝手に行ったのでは云々とか、正確な地名や電話番号もわからないのではとか言い、でも調査して置くとの返事であった。其の後此の事に関して何の連絡もなし。

俺は支配階級が彼等の都合次第で労働者達の自由を人権を生命を遠慮なく左殺してしまう姿を見た。其のカベは厚く労働者個々の力ではねね返されてしまう。

目を閉じれば見える祖国日本を米帝の植民地的従属国としてまり浪した大衆の姿が、釜ヶ崎にあるぐ労働者もゼャクターする悪魔共の姿が、巨大な形となって迫って来る。

此等のやから、現日本の支配階級も歴史的必然性のもと、俺達労働者階級によってリブれは打倒される運命にある張子の虎だ。

されど張子の虎は今は未だ相対的に強大であり、時によって白面にうえたる狼となって、何百万人、何千万人の生命も食う。労働者の一人一人では如何に働きしりしても太刀打ち出来ない力でもある。

俺は諦観し、日和見となり、無気力となり、何時しかドレイ根性のアカのつりたルンペン労働者となり、思ったり考えたりすれば腹が立つ故、努めて思考する事を止め、酒やギャンブルで矛盾と苦痛より逃げようとした。

一生無気力なルンペン労働者として終ったかも知れない俺に熱い血潮を与えたのは、釜ヶ崎の仲間達の偉大なる斗いであった。暴力手配師の一撃という、俺は釜ヶ崎の仲間達の斗いを見て心丈夫に思った。

俺は思う、釜ヶ崎に来て以来の十数年の歳月を無意

(29)

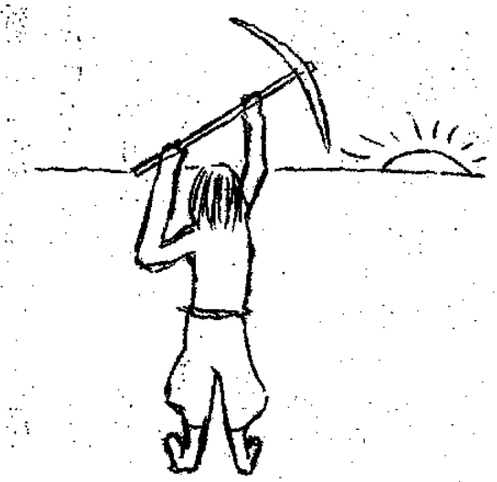
味に過ごした事を恥じ、ドレイ根性や日和見主義を捨て、誇り高き労働者階級の一員として、時によれば命も惜しまず、如何なる苦痛もものともせずに日常生活をして行こう。

労働者階級が革命によって政権の権力を樹立する日迄

（釜ヶ崎の一労働者）

釜ヶ崎鬼兵隊

和田平之助



大石蔵助吾郎、四十五才。木村岡右衛門、四十六才。前原伊助宗房、四十才。神崎則五郎則休、三十八才。赤埴源蔵重賢、三十五才。堀部安兵衛武庸、三十四才。大高源五忠雄、三十三才。

「あんた、何いうてるのんで。」

と妻の君子が寝床の中から、私の一人ごとに驚いて私の背中へ向って声を掛けた。私は君子の方へは振り向かない。脱糞もして小机の前に歴然として座っている。

〃俺もそろそろ死んでもいい時期だなあ〃と、これは心の中でつぶやいた。

「あんた、何よてレ君子の方は自分が無視されたことが口惜しいのか、今度は彼女の語気はやや荒い。大

理一間きりの三〇円アパートの一部屋で君子はふとんの中で腹這いになり〃マンガ〃の頁をパラパラめくっている。窓の外は彼岸もようらかな小春日和で人々はのんびりとした表情で往き来しており。心も大通りでは車の騒音、地響きはげしく時々、私のこの部屋の窓をゆるがすのだ。

「仕事をも休んで、あんた何を考えてるのん。」私は四十三才、妻の君子は二十六才。彼女はN生命保険の外交員であり、今日は会社への出勤は午後二時だそうだ。私と君子が同棲するようになって5年で四年目である。大阪市内で工務店を経営している父の庇を手伝っているうちその叔父の世話で私は彼女といっしょになった。しかし親戚とはいえ何かと気苦労な多く二年前に叔父と縁を切った。以来定職にもつかず而て雀荘・麻雀業安定所を訪れ〃アンコ〃と称する〃最〃とも社会的に弱い存在、最も下等な仕事をするようになった。

「環状線鶴橋駅から朝早く寝屋に乗り〃新今宮駅〃まで駆つける。釜ヶ崎地区センターという巨大なビルの中に、ひっそりと求人票が並んでいるのだが、人夫仕事と呼ばれる肉体労働、第一章第六条に違反するものばかりだ。その中から民主的条件のよさそうなところへゆく。昨日は某組建設現場、今日は某建築現場の片付け仕事などといった毎日で、日々行先が変ることが多い。そのうち一しょに行ったアンコ仲間と言葉を交したりするうちに社会的有様を知識を私はドンドン知れない程多く得た。

何故に国際的日本人民の中にボーダーライン厳とい(31)われる階級をこしらえたか。これは親しくなったアンコの口の上話を聞いたことによって知った。

私の考えでは、そうだ、この際書かねばならないだろうが、しかし私の現在の心境としては触れたくない事柄が多いし嫌悪感でさいなまれるのでこの辺、割愛しておく。（作者注）この偏全体が〃フィクション〃ばかりではない。）

君に角釜ヶ崎に於て私は様々のことを教へられたので

ある。

何故に警察は〝手配師〟と称する暴力団を見出すのか？「それは資本家の用心棒であるからだ。」

何故に警察は〝手配師〟と称するサクシュ者を行政は黙認するのか？「それは資本家が下請制度というものによって、社会保証一切を縮小するためだ。」

現場には〝棒心〟というものがいてアンコ労働者をこき使い監視している。この棒心は階級としてはアンコとちっとも変りはないけれども使用者の手先として飼馴らされ、優越感というアメをしゃぶらせアンコと直接に接触することによって仕事ののうりつを上るためだ。

西成のドヤ街は日本一物価の高いところだ。「食料品にしても古いもの、半ばくさりかけたものを売っている。衣類は〝RAG、FAIR〟（ぼろくずやん）というところから一着百円位で買ってきて一枚百円位の割で売っていること。

それから、ドヤ銭の高いこと。仕事がふえて少し労賃が上がるやすかさず値上げをする。それも法外な割合である。普通三百円のドヤ賃が三百五十円に値上りした（ドヤの管理者が集まって申し合わせをやっている。）労賃は、ドヤ銭の値上げの割合からいえば労賃は三千円から三千五百円にすべきではないのか。

一にぐく、私は釜ケ崎に於いて実に多くのことを学んだ。釜ケ崎は私にとって大学であったし最っとも烈しい剣術の道場であった。

否、私は今未だ下そうとしている。

「西成署をふっとばすこと。」

いってあったが〝三角公園〟に於いて、暴力団横山組を糾明する正当なわれわれの集会を、警察は〝やくざ〟と手を結んで、先づやくざ共が騒行などを煽ったりして集会を妨害し、機動隊は、この日最も残虐装をしてわれ〳〵を包囲し、イカクし、排発した。（その夜の機動隊は装備したガス銃をけいたいし集会のリーダーをすべてパクるつもりだったのだ。）

私はどこまでインケンな警察を今でも忘れることはできないのだ。金くのところ思いで身がふるえた。

ダイナマイトなり、である。腹へダイナマイトをつめこんで、西成署もろともふっとばしてやい。私のようなものが後につづくと信じて散華したっていい。このことは我々四十才前後のものがやらねばならないと私は思う。（外でもない。）り前余ある同志を一人でも殺してはならないと思う。若者達は、やることがたくさんある。その上エネルギーをもって各所に飛びまわって組織づくりに、デモに、〝ETC〟。そして釜ケ崎アンコが強力な女子になってゆくために共に闘わなければならない。

私位の年齢で、私のような考えをもっているものも私はニニではあるが話し合っている。その名も「釜ケ崎鬼兵隊。」〝釜ケ崎鬼兵隊、良い！！だ。

突然背後から婆子が言った。

「ねェ、あんたァ、いっまで座っているのでそんなに考えこ、ないで、もうちょっと寝たらあーレ

婆子は最然から読んでいた〝マンガ〟にもあきたのだろう。

《コマーシャルのらん》

お初お目にかかりやす。あっし、生まれてまだ二年のガキでやんすが、その名も高き……

釜ケ崎医療を考える会です。

☆知恵とたちあわせ、うって一丸となって、生きぬいて、奴らにしかえししよう。ガンバロウ！

医療相談受付中　野宿の会で土・日受けつけてます

パンフレット案内

★活動報告書『いのち』A5、ザラ版　50円
昨年12月6日の釜ケ崎労働者をくいものにする悪徳病院弾劾集会の録音テープ全文収録、他

★案内＝殺人精神病院内ミ学記『神の名に医師の席はない』（松末三郎）　50円　30円

★「殺人のない社会をめざす人民の〝葬儀屋〟」人民公葬社　発行　（無宗教葬内山（B6版）無料、おいらの野ニんゲンたちの美しさを味わう。

信濃忍拳（空手）をおぼえよう。

信濃忍拳（正確には「信濃忍拳忍体拳空手群」）とは、戦国時代信濃の国（今の長野県）に起った忍者群の体術と沖縄の空手を組み合わせた武術である。

この空手が他の空手とちがうのは、沖縄人民が島津藩の侵略をうけ、すべての武器をうばわれた中で反撃せんがために肉体を武器として生みだした、そのきびしい抑圧、苦しみを与えた奴らに対する空手としてあることである。信濃忍拳は人民の、労働者のための空手であり、抑圧し、差別する奴らをブチのめすための武器である。

去年の斗いでこれまでのようにチ配師、ヤー公はでかいツラできなくなってきているが、まだまだデカイツラしている手配師、ヤー公はギーサンおる。それに、最近、西成署のケタオチポリ公供はますますノサバっているではないか。ワシらはもっともっと堅い団結を打ち固め、強くならねばアカン。これまで奴らにやられ続けてきた分の全部を、数倍にしてやり返してやらねばアカン。

今、自分は弱いと思っていても訓練しだいでだれでも強くなれる。ワシらはこれまで弱いと思いこまされてきたし、強くなる方法も教えられなかった。空手も学生とかポリ公、右ヨクのものだと思っていた。しかし、労働者が敵に勝つために一つの武器になろうとするのが信濃忍拳である。信濃忍拳をおぼえてこれまでワシらをバカにしてきた奴らをブチのめしてやろう。

若いもんもおっちゃんも自分なりにそれぞれ色んな方法でやっていこう。これまでは仲間がやられているときどんなに助けたくとも助けられなかったくやしさを空手にぶつけ、今度こそ仲間を助けよう。そして現代の忍者になってポリ公にひとアワふかせよう。

連絡先　西成区東田町4丁　野鳥の会気付
TEL. (631) 2383
信濃忍拳　釜ヶ崎実行部

▽ほんの少し残っている創刊号の申し込みは

▽どこにも売ませたい第2号の申し込みは

▽第3号の原稿を出す時は

→釜族編集委員会 ☎631-2383